

We are

2025(令和7)年7月15日
福山市立日吉台小学校
5年学年通信 音楽特別号

音楽科 鑑賞の学習より

音楽の学習で、「祝典序曲」の鑑賞をしました。この曲は、ロシアの作曲家ショスタコービチの作品で、ファンファーレの後、2つの旋律が交替しながら進んでいきます。7つの部分（ア～キ）からなるこの曲を、主な旋律やそれを演奏する楽器に注目したり、気に入った部分を見つけたりしながら聴きました。好きな部分を中心にまとめたので、紹介します。

「祝典序曲」は、ショスタコービチによってつくられた曲で、オーケストラで演奏されます。

私が好きなところは、第2の旋律です。カの後急に切り替わり、急に速くなるところがかっこいいです。最後に、私が好きな小太鼓が盛り上げるところも魅力的です。

全体を通して見て、生ではなくても迫力を感じ、強くなったり弱くなったりするところがすごいと思いました。

全部すごかったけど、私は、キのはなやかで細かいリズムのところが一番いいと思いました。

「祝典序曲」は、ショスタコービチ作曲で、オーケストラで演奏される曲です。

ぼくが好きなところは、第1の旋律です。イでは、前半はクラリネット、後半はバイオリンが主役になっています。エでは、バイオリンが主役で、イと同じく迫力がありますが、イより少しゆっくりに感じました。

映像を見ると、手や口を細かく動かし、きれいな音色を演奏していました。体も動かして、音の強弱を調整するためかなと思いました。

「祝典序曲」は、ショスタコービチが作曲した曲で、オーケストラで演奏されます。オーケストラは、弦楽器、木管楽器、金管楽器と打楽器による合奏で、全体的に楽しさが感じられます。

私が好きなのは、後半のファンファーレの旋律です。主に、トランペット、ホルン、トロンボーンで演奏されます。遅い音楽だけど楽しそうで、低い音の中に高い音が少しまざっていて、とてもすてきです。お城の舞踏会や、何かを祝っているかのような感じです。

映像を見ると、パートごとにそれぞれの楽器が強弱を意識しているから、安定した合奏になっていると分かりました。

「祝典序曲」は、ショスタコービチによって作られた曲で、オーケストラで演奏されます。

私が好きなところは、オのところ。トランペットとトロンボーンを使っています。ここの音楽を聴くと、私はとても元気が出てくるので、とても好きです。

ここの音楽を聴くと、大きくなったり小さくなったりしていることに気がきます。音の大きさが変わって、楽しくなって、元気が出ました。

これから、音楽発表会で演奏する曲「ウィーアー」の練習に取り組んでいきます。鑑賞の学習で学んだことを生かし、どんな音楽にしていきたいか考えたり、そのための演奏の工夫を考えたりしていきます。まずは、夏休みに、自分が担当する楽器を練習するところから始めていきますので、励ましの声掛けをよろしくお願いします。